

調査・設計等業務の総合評価落札方式に関する現状分析

国土交通省国土技術政策総合研究所 正会員 ○菊田 友弥
 前 国土交通省国土技術政策総合研究所 正会員 根津 佳樹
 国土交通省国土技術政策総合研究所 正会員 小川 智弘
 前 国土交通省大臣官房技術調査課 永田 耕之
 前 国土交通省大臣官房技術調査課 正会員 芹澤 啓

1. はじめに

国土交通省が発注する調査・設計等業務では、平成20年度に総合評価落札方式を導入することなどにより、業務の品質確保を図ってきた。制度導入から7年目（平成26年度）には、本方式による契約件数が全体の5割を超えるなど、発注方式として広く浸透している。本稿では、導入から10年目を迎えた本方式による入札・契約の現状について分析・評価した内容を概説する。

2. 国土交通省発注の調査・設計等業務の総合評価落札方式の契約状況

総合評価落札方式の配点比率（価格点：技術点）別の契約件数の推移を図-1に示す。平成27年度の契約件数の割合は、1：1は60.0%、1：2は37.1%、1：3は2.9%となった。平成22年度以降、1：1の件数の割合は増加しており、評価テーマに対する技術提案を求めずに、予定技術者と実施方針のみで評価する「簡易型」が選好される傾向にある。

3. 総合評価落札方式の現状分析

(1) 技術点の得点率

総合評価落札方式の技術点の平均得点率の推移を図-2に示す。落札者の平均得点率は経年的に上昇しており、落札者以外の者の平均得点率も上昇している。それぞれの得点率の上昇の程度（図-2の折れ線グラフの傾き）が異なるため、結果として、落札者とそれ以外の者の技術点の得点率の差は、経年的に縮小している。

(2) 落札者と順位との関係

平成27年度の落札者の価格点順位、技術点順位との関係を図-3に示す。技術点1位の者は、総合評価落札方式全体の約9割で落札者となった。また、技術点1位かつ価格点1位の者が落札した割合は52.1%となった。これらの指標の推移を図-4に示す。技術点1位の者が落札する割合は、経年的に増加傾向にあり、技術がより重視された落札傾向が進んでいると捉えることができる一方で、技術点1位かつ価格点1位の者が落札する割合も増加傾向にあることから、前述の1：1の件数割合の増加傾向（図-1）とともに、競争参加者の価格に対する意識も強まりつつあると考えられる。

(3) 技術点の得点差の推移

技術点1位の者と2位の者の得点差（60点満点で換算）を業務単位で算出し、平均したもの（平均得

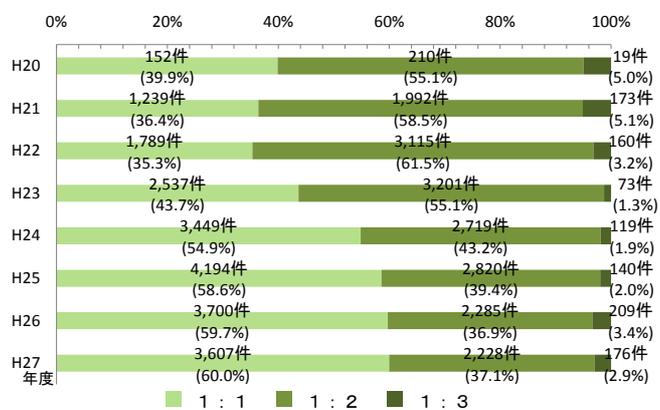


図-1 配点比率別の発注件数の推移

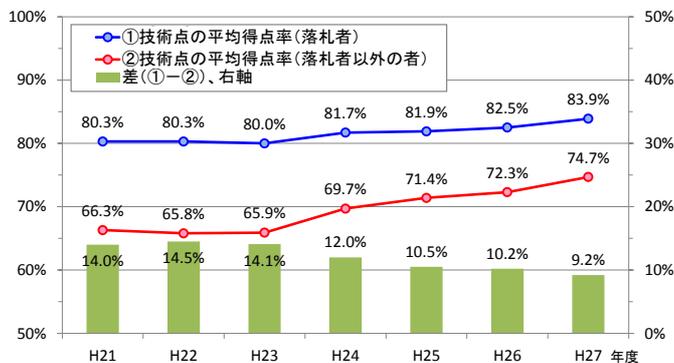


図-2 技術点の平均得点率の推移

キーワード 調達, 入札・契約, 調査・設計業務, 総合評価落札方式, 技術点

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1 国土交通省 国土技術政策総合研究所 TEL029-864-4239

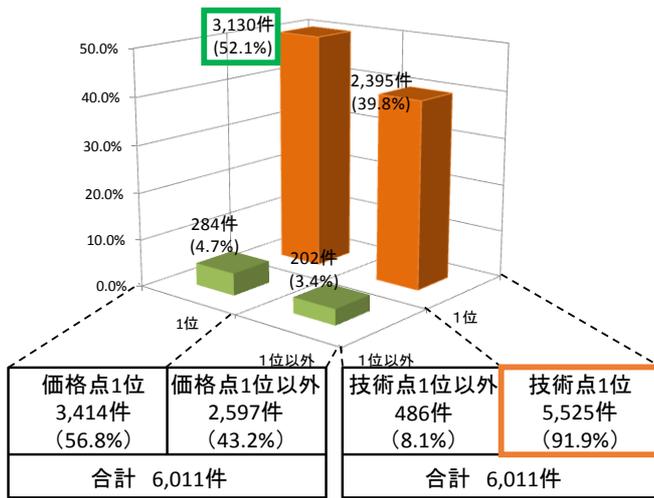


図-3 落札者の価格点順位, 技術点順位との関係 (H27年度)

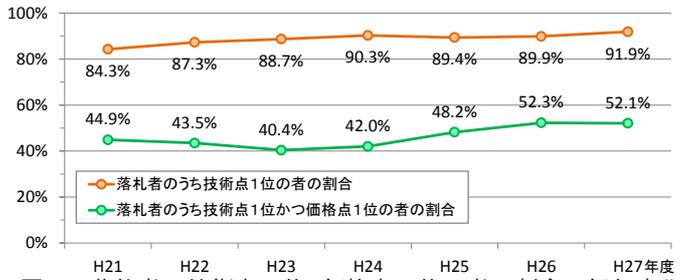


図-4 落札者の技術点1位・価格点1位の者の割合の経年変化

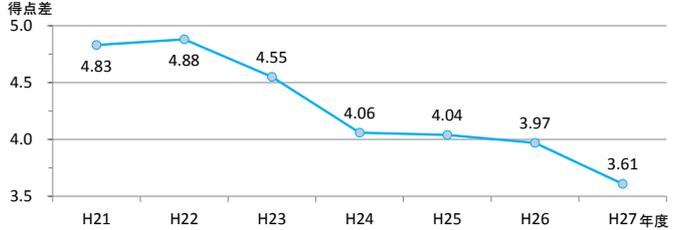


図-5 技術点1位と2位の平均得点差の推移

表-1 評価項目別の得点率, 配点割合 (H28年度第1四半期) 注: 数字は平均値, ()内は標準偏差, N=1,123

	予定技術者				技術提案等		計
	資格*1	実績等*2	成績*3	表彰*4	実施方針*5	評価テーマ*6	
①各項目1位の者の得点率	99.0% (5.0%)	99.2% (5.9%)	86.1% (13.5%)	71.4% (41.8%)	80.9% (12.8%)	77.6% (18.9%)	
②全入札参加者の得点率	94.4% (13.1%)	92.8% (14.6%)	75.7% (18.9%)	44.8% (43.5%)	69.4% (16.7%)	66.7% (19.4%)	
差 (①-②)	4.6%	6.4%	10.4%	26.6%	11.5%	10.9%	
	1 : 3	3.0%	7.0%	12.8%	2.2%	24.5%	100.0%
項目別配点割合	1 : 2	4.0%	10.2%	15.4%	3.7%	23.3%	100.0%
	1 : 1	5.3%	15.5%	23.5%	5.7%	50.0%	100.0%

*1 技術士資格等の保有を評価, *2 同種・類似業務等の実務経験を評価, *3 技術者の過去の業務成績評定点を評価, *4 技術者表彰の実績を評価
*5 実施方針・実施フロー・工程表等を評価, *6 業務内容に応じて示される評価テーマに対する技術提案の内容を評価

点差)の推移を図-5に示す。技術点の平均得点差は経年的に縮小(4.88点(H22)→3.61点(H27))する傾向にあるものの、価格点1位の者と2位の者の平均得点差(1.02点(H27))と比べると、技術点は一定の得点差が確保されており、現状では技術が重視される傾向に変わりはないと解することができる。

4. 総合評価落札方式の評価項目別の得点率, 配点割合の分析

上述の技術点の得点差の縮小等の要因について詳細に把握するため、平成28年度第1四半期に契約した業務を対象に、評価項目別の参加者の得点率、発注者が設定する配点割合の実態を分析した(表-1)。各項目1位の者と全入札参加者の得点率の差は、「表彰」、「実施方針」、「評価テーマ」、「成績」の順となった。

「資格」と「実績等」の得点率の差が他の項目より小さくなった理由として、多くの場合、配置予定技術者が技術士資格や同種業務の実績を有していることが挙げられる。また、「資格」と「実績等」の全入札参加者の得点率は他の項目よりも高いことから、これら2項目は基礎点のような性格を持つと考えられる。

「表彰」の得点率の差が他の項目よりも大きくなった理由として、表彰の実績の有無が評価点の加点の有無に直結することが挙げられる。一方で、「表彰」の配点割合は他の評価項目より比較的小さく設定(2.2%~5.7%)されており、予定技術者の評価の中では「成績」に重点的に配点(12.8%~23.5%)される傾向を確認した。

5. まとめ

建設プロジェクトの上流で実施される調査・設計等業務の品質確保に重要な役割を持つ入札・契約制度をより良いものとするため、総合評価落札方式の運用にあたっては、本稿2, 3で取り上げた各指標の動向等を引き続き注視するとともに、今後、評価項目別の得点率等の分析(本稿4)の対象を拡大し、課題等について整理する予定である。

参考文献

- ・調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会, 国土交通省, 2017
- ・調査・設計等業務に関する入札・契約の実施状況(平成27年度年次報告・詳細版), 国土技術政策総合研究所, 2017 <http://www.nilim.go.jp/lab/peg/theme03.html>